

記事一覧 モデルコース(半日・1日) 車なし・バス観光ガイド 盛岡三大麺・グルメ

観光スポット・季節のイベント 穴場・大人の習い事・体験 岩手県内の観光・イベント情報

平泉観光

トップ > NYT 「行くべき52カ所」 盛岡の経済効果は18億円！選出理由と成功の舞台裏

2025-01-19

NYT 「行くべき52カ所」 盛岡の経済効果は18億円！選出理由と成功の舞台裏



左上/盛岡城跡公園、右上/岩手銀行赤レンガ館、左下/紺屋町ござ九、右下/高松の池

ニューヨーク・タイムズが認めた盛岡の真価 | 2023年選出の裏側と18億円の経済効果を徹底検証

<広告>

最新記事



盛岡の桜は朝がいい | 城跡公園から中津川へ

歩く静かな花見コース+川沿い散歩



盛岡の桜 2026 | 4/15最新開花状況と見頃

(石割桜・高松の池・盛岡城跡公園・米内浄水場)



春の藤原まつり 2026 | 義経役は誰？高塚

大夢に決定！歴代一覧と行列・アクセスガイド



盛岡冷麺の量はどれくらい？普通盛り・大盛りの違いと値段を解説

【記事リライト/2025.12.19】

2023年、ニューヨーク・タイムズ（NYT）で世界第2位に選ばれた盛岡市。

当初の驚きは、やがて「18億円超」という驚異的な経済効果の数字として結実しました。なぜロンドンの次に盛岡だったのか？

本記事では、推薦者クレイグ・モド氏が絶賛した「歩ける街の魅力」や喫茶店文化を深掘りし、2025年現在の最新状況までをファクトチェック。

結論として、盛岡の成功は「日常の美しさ」が世界基準の資産になることを証明しました。この流れは2024年の山口、2025年の富山・大阪へと受け継がれています。地方観光のバイブルとなる一冊、盛岡から始まる「日本再発見」の旅をご案内します。

目次

- ニューヨーク・タイムズが認めた盛岡の真価 | 2023年選出の裏側と18億円の経済効果を徹底検証
- 1. 18億円の衝撃：NYT選出が盛岡市にもたらした経済的インパクト
 - ① 外国人宿泊客の劇的増加と「層」の変化
 - ② 18億円の内訳：どこにお金が落ちたのか？
 - ③ 2025年現在、数字は「質」へと転換した
- 2. なぜ「盛岡」だったのか？世界を唸らせた「本物の日本」
 - ① 歩いて回れる「人間サイズ」の街並み（ウォーカブル）
 - ② 喫茶店文化：スローライフの極致
 - ③ 三大麺という「体験型美食」
- 3. 推薦者クレイグ・モド氏と「日本の地方」を救う視点
 - 「日常こそが宝」という教え
- 4. 盛岡が切り拓いた「日本選出の系譜」と最新ファクトチェック
 - ① 2024年：山口市（3位）の成功と「瑠璃光寺の今」
 - ② 2025年：富山・大阪へのバトンタッチ
- 5. 深掘り分析：盛岡の「日常」を支える職人と文化の力
 - 南部鉄器と現代のライフスタイル
 - 「ジャズ喫茶」という知的な遺産
- 6. 2025年版・盛岡「聖地巡礼」の歩き方ガイド
- 7. 盛岡から富山・大阪、そして2026年へ
- 8. 結論：盛岡が証明した「日本の地方の勝利」

“ この記事でわかること

- **【経済的真相】** 盛岡市を劇的に変えた「18億円の経済効果」とその後の持続的な成長
- **【選出の深層】** なぜロンドンの次が盛岡だったのか？欧米人が熱狂した「日常のラグジュアリー」



【2026年4月最新】
小岩井農場の一本桜 | 開花

状況・見頃予想とバスアクセス

初めての方・おすすめ

モデルコース(半日・1日)

車なし・バス観光ガイド

注目記事



盛岡の桜
2026 |
4/15最新
開花状況
と見頃

(石割桜・高松の池・盛岡城跡公園・米内浄水場)



平泉観光
モデルコ
ース半日
ガイド | 3
時間で中

尊寺・毛越寺を巡る最強ルート



盛岡観光
は何もない？【実
はある】
わんこそ

ば平均は何杯？男女別・1人前も解説



盛岡でん
でんむし
時刻表
2026 | 右
回り・左

回りの料金・停留所・乗り方



【2026年4月最新】
小岩井農場の一本

- **【ウォークブル都市】** 推薦者クレイグ・モド氏が提唱した「歩く旅」が日本の観光政策を変えた理由
- **【山口・富山・大阪への道】** 盛岡の成功が2024年・2025年の選出にどう影響を与えたか
- **【最新ファクト】** 山口・瑠璃光寺五重塔の「令和の大改修」と現在進行形の盛岡
- **【2025年最新版】** 最新の富山・大阪選出に関する詳細記事への完全送客

1. 18億円の衝撃：NYT選出が盛岡市にもたらした経済的インパクト

ニューヨーク・タイムズに掲載された直後から、盛岡市の風景は一変しました。当初、岩手経済研究所が算出した「18億円」という数字は、単なる一過性のブームに留まらず、2025年現在、より強固な「地域資産」へと成長を遂げています。

① 外国人宿泊客の劇的増加と「層」の変化

2023年度の統計によれば、盛岡市内の外国人宿泊者数は前年度から約6万人以上も純増しました。特筆すべきは、単なる「人数の増加」ではなく「客層の質の変化」です。

- **欧米豪からのFIT（個人旅行者）の台頭**：これまでアジア圏の団体客が主流だった東北観光において、NYTの熱心な読者である北米・欧米の知的層が、自ら情報を集めて盛岡を訪れるようになりました。
- **滞在日数の長期化**：彼らは盛岡に3～5日間ほど滞在し、そこを拠点に「平泉」「遠野」「三陸」といった岩手県内を周遊しました。これにより、県全体の宿泊・飲食・交通インフラに大きな恩恵をもたらしました。

② 18億円の内訳：どこにお金が落ちたのか？

岩手経済研究所の分析によれば、消費の大きな柱は以下の3点でした。

1. **宿泊・飲食消費（約12億円）**：特にNYTで名指しされた「カプチーノ詩季」や「光原社」などの喫茶店、わんこそばの「東家」などは連日満席となりました。
2. **体験・アクティビティ消費（約3億円）**：わんこそば体験や南部鉄器の工房見学、地元ガイドによる街歩きツアーなどが活況を呈しました。

桜 | 開花状況・見頃予想とバスアクセス

目的別ガイド

モデルコース（半日・1日）(6)

車なし・バス観光ガイド(9)

盛岡三大麺・グルメ(23)

観光スポット・季節のイベント(65)

穴場・大人の習い事・体験(15)

岩手県内の観光・イベント情報(11)

平泉観光(7)

月別アーカイブ

2026(24)

2025(39)

2025 / 12(1)

2025 / 11(5)

2025 / 10(5)

2025 / 9(4)

2025 / 8(1)

2025 / 7(2)

2025 / 6(8)

2025 / 5(3)

2025 / 3(3)

2025 / 2(4)

2025 / 1(3)

2024(79)

2023(17)

参加グループ



観光旅行ブログ

3. **土産品・伝統工芸品（約3億円）**：南部鉄器の急須や、岩谷堂筆筒の小物など、高単価かつ持ち帰りやすい伝統工芸品の売上が激増しました。

③ 2025年現在、数字は「質」へと転換した

選出から2年以上が経過した現在、18億円という数字は「リピーターの定着」と「シビックプライド（市民の誇り）の向上」という、換算不能な価値へと昇華しています。盛岡市へのふるさと納税額も好調を維持しており、「NYTに選ばれた街」というブランドは、もはや不動のものとなっています。

2. なぜ「盛岡」だったのか？世界を唸らせた「本物の日本」

多くの日本人が自問しました。「なぜ京都でも、東京でも、広島でもなく、盛岡なのか？」と。しかし、欧米の旅行者にとって盛岡は、現代社会が失いつつある「究極のラグジュアリー」に満ちていました。

① 歩いて回れる「人間サイズ」の街並み（ウォークアブル）

盛岡の中心部には、北上川、雫石川、中津川の3つの清流が流れ、その川沿いには明治時代の赤レンガ建築、大正時代の洋館、江戸時代の老舗が点在しています。

- **自分の足で発見する喜び**：巨大なアトラクションがあるわけではない。しかし、橋を渡るたびに現れる岩手山の雄姿、路地裏に見つける小さな古書店、コーヒーの香りが漂うジャズ喫茶。この「散歩の楽しさ」が、欧米の個人旅行者にとって最大の魅力でした。

② 喫茶店文化：スローライフの極致

盛岡は日本でも屈指の「コーヒー消費量が多い街」であり、独特の喫茶店文化が根付いています。

- **「カプチーノ詩季」の静寂**：サイフォンで一杯ずつ丁寧に淹れられるコーヒーと、バタートーストの香。
- **「光原社」の精神性**：宮沢賢治ゆかりの地であり、民藝（みんげい）の精神が息づく空間。欧米人はここを「観光地」としてではなく、日本人の「深い思索と休息の場」として尊重し、熱狂しました。

③ 三大麺という「体験型美食」



岩手県

オニヤンマ

joumon

最終更新: 4日前

盛岡観光は何もない？のではと感じている方のために、盛岡の観光情報あれこれを公開しています。

読者になる 11

このブログについて

検索

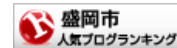
記事を検索

<広告>

外部リンク

盛岡地域情報まとめサイトへ

ランキングサイト



盛岡市ランキング



にほんブログ村

盛岡冷麺、盛岡じゃじゃ麺、そしてわんこそば。

- **食を通じた交流**：特にわんこそばは、給仕との掛け合いを通じて「日本の人情」に触れる体験として評価されました。単に腹を満たすだけでなく、その土地のコミュニティに触れる食事のあり方が支持されたのです。

3. 推薦者クレイグ・モド氏と「日本の地方」を救う視点

盛岡をNYTに推薦したのは、作家であり写真家のクレイグ・モド（Craig Mod）氏です。彼の視点は、日本の観光政策にも大きな影響を与えました。

「日常こそが宝」という教え

モド氏は、日本中を徒歩で旅する中で、「京都はもはやテーマパーク化しており、本当の日本人の暮らしが見えづらくなっている」と警鐘を鳴らしました。対して盛岡は、**「誰かに見せるための装飾がなく、人々が自分たちの生活を淡々と、しかし美しく営んでいる」**街でした。この「オーセンティシティ（本物であること）」が、世界一のクオリティを誇るNYT読者の心に深く突き刺さったのです。

4. 盛岡が切り拓いた「日本選出の系譜」と最新ファクトチェック

盛岡の成功は、2024年の山口、2025年の富山・大阪へと続く「日本再発見」のプロトタイプとなりました。

① 2024年：山口市（3位）の成功と「瑠璃光寺の今」

盛岡の「ウォーカブルな街」という法則を受け継いだのが山口市です。

- **【最新ファクト】瑠璃光寺五重塔の令和の大改修**：2025年現在、山口市の象徴である五重塔は「令和の大改修」の真っ最中です。しかし、これは決してマイナスではありません。山口市ではこの改修期間を逆手に取り、シートに描かれた特別デザインや、夜間のライトアップ演出など、「今しか見られない歴史の継承」として観光客に提示しました。この「守り、伝える姿勢」こそが、NYTが評価した日本地方都市の良心です。

② 2025年：富山・大阪へのバトンタッチ

盛岡が証明した「地方都市の底力」は、2025年にはより多様な形（富山のガラスアートと復興、大阪の万博と包摂性）へと進化しました。

- 日本選出の法則：
 1. 京都・東京に代わる、混雑のない「静寂」。
 2. 自分の足で歩いて回れる「街のスケール」。
 3. その土地にしかない「本物の工芸・建築」。
-

5. 深掘り分析：盛岡の「日常」を支える職人と文化の力

盛岡が選出された理由として、もう一つ欠かせないのが「クラフトマンシップ（職人魂）」です。

南部鉄器と現代のライフスタイル

盛岡を訪れる旅行者の多くが「釜定」や「鈴木盛久工房」などを訪ねます。ここでは、数百年前から変わらぬ手法で鉄瓶が作られています。NYTの記者は、この伝統的な道具が、現代のミニマリスト的な生活習慣や、お茶を愉しむ健康意識と非常に相性が良いことを看破しました。

「ジャズ喫茶」という知的な遺産

盛岡は日本有数のジャズ喫茶の街でもあります。「開運橋のジョニー」や「穂吉（あきよし）」など、数千枚のレコードに囲まれ、高音質なオーディオで音楽を聴く時間は、ストリーミングで手軽に音楽を消費する現代人にとって、衝撃的な「知の隠れ家」として映りました。

6. 2025年版・盛岡「聖地巡礼」の歩き方ガイド

NYT掲載から時間が経った今だからこそ楽しめる、盛岡の成熟した歩き方を紹介します。

1. 盛岡駅～開運橋：岩手山の美しさを再確認。ここが「旅の始まり」です。
2. 中津川沿い～紺屋町：「ござ丸」で盛岡の商人の歴史を感じ、「番屋」でボランティアガイドと交流。

3. 喫茶店「カプチーノ詩季」：クレイグ・モド氏が絶賛したバタートーストを味わいながら、彼が何を見たのかに思いを馳せる。
4. 盛岡神子田朝市：日の出とともに始まる市場で、地元民に混じって「ひつつみ汁」を食べる。

7. 盛岡から富山・大阪、そして2026年へ

盛岡の18億円の経済効果は、日本の全ての地方自治体に勇気を与えました。「うちには何もない」ではなく、「うちには変わらない日常がある」ことの価値を教えたのです。

2025年現在、富山や大阪が選出され、日本の観光はさらなる進化を遂げています。最新の富山・大阪がどのような理由で、世界を驚かせているのか。その詳細は、以下の記事で最新アップデートを行っています。

“ 2025年版の全リストと詳細はこちら [【2025年最新】NYT「行くべき52カ所」一覧！富山・大阪の選出理由と全リスト](#) ”

8. 結論：盛岡が証明した「日本の地方の勝利」

ニューヨーク・タイムズが認めた盛岡の真価は、一時的なブームで終わることはありません。18億円という経済的な果実を超えて、私たちは「日本の美しさ」を世界から再定義してもらいました。

盛岡、山口、富山、大阪。これらの都市を繋ぐ共通項は、**「自分たちの文化を誇り、誠実に守り続けていること」**に他なりません。2025年、あなたもぜひ自分の足で、世界が恋した盛岡、そして富山・大阪の街を歩いてみてください。

参照サイト

- [ニューヨーク・タイムズ \(The New York Times\) 52 Places to Go in 2023 - Morioka](#)
 - [盛岡市役所 公式サイト NYタイムズ「2023年に行くべき52カ所」選出後の取り組みについて](#)
 - [岩手経済研究所 盛岡市の経済効果分析レポート](#)
 - [2025年最新版ガイド \(本ブログ内記事\) 【2025年最新】NYT「行くべき52カ所」一覧！富山・大阪の選出理由](#)
-

盛岡 # ニューヨークタイムズ # 行くべき52カ所 # 経済効果
地方創生 # クレイグモド # 聖地巡礼



シェアする



コメントを書く

« 盛岡市と近隣市町村の人気のイベント・行...

盛岡観光 冬の伝統行事 | 裸参りで一年の安... »